

令和4年4月18日

保護者の皆さま

熊本大学教育学部附属中学校  
校長 山本一雄

### オミクロン株の特徴を踏まえた本校の対応について（お知らせ）

陽春の候、保護者の皆さまにおかれましては益々ご健勝のことと拝察いたします。また、日頃から学校運営とともに新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止への対応にご理解とご協力を賜りありがとうございます。

さて、新型コロナウイルス感染症への対応については、文部科学省からの事務連絡「オミクロン株が主流である間の当該株の特徴を踏まえた濃厚接触者の特定及び行動制限並びに積極的疫学調査の実施に伴う学校に関する対応について」を受けて、次の通りに実施いたします。

#### 1. 濃厚接触者の特定について

文部科学省事務連絡により、「中学校や高等学校などで感染者が発生した場合については、保健所などによる積極的疫学調査及び濃厚接触者の特定・行動制限は求められない。」とされました。

本校においては、国通知を踏まえ、学校内での積極的疫学調査及び濃厚接触者の特定・行動制限は実施しないこととします。

ただし、学校内で同時に多数の感染者が発生し、感染拡大の場となっている可能性がある状況や、更なる感染対策の必要性が認められる場合には、保健所による学校内での調査を実施する場合があります。

#### 2. 臨時休業の判断について

学級閉鎖などの臨時休業の判断については、文部科学省が示す基準を準用して目安としてきましたが、今回、濃厚接触者を特定しないことを踏まえ、以下の通りとします。

##### 【1】学級閉鎖

- 以下のいずれかの状況に該当し、学級内で感染が広がっている可能性が高い場合、学級閉鎖を実施する。
- ①同一の学級において複数の生徒等の感染が判明した場合
- ②感染が確認された者が1名であっても、周囲に未診断の風邪などの症状を有する者が複数いる場合
- ③その他、大学で必要と判断した場合

##### 【2】学校全体の臨時休業

- 学校の総学級数の25%（3クラス）以上の学級を閉鎖するなど、学校内で感染が広がっている可能性が高い場合、学校全体の臨時休業を実施する。
- 閉鎖の期間として、5日程度を目安に、感染の把握状況、感染の拡大状況、生徒等への影響などを踏まえて判断する。

なお、校内の感染状況を考慮し、学校医及び熊本大学と連携を図り、学級閉鎖及び学校全体の臨時休業を判断した場合は、ひびきあいメールまたはHPにてお知らせします。

今後も、各ご家庭で感染対策を徹底していただくとともに、咳や咽頭痛、発熱など、わずかでも風邪症状が見られる場合は、登校を控え、すぐに関係機関に受診していただくようお願いいたします。